



## 写 真 の 普 及 発 展

ほり 堀 え 江 とみ た 太 郎

(87歳)

住所

秋田市

昭和初期より写真にたずさわり、昭和7年写真同好会「秋田新光会」を創立、会の

代表者となり現在まで本県写真界の指導者として多くの写真愛好家の指導育成に尽力

している。

また、昭和45年には秋田県写真協会の創立とともに初代会長に就任、現在は最高顧

問として活躍する一方、秋田県造形美術家協会においても写真部門の副会長として会

の発展はもちろんのこと、本県写真界の発展に大きく貢献している。



## 社会福祉の向上

小畠好子

(76歳)

住所

秋田市

戦後の混乱した社会と人心の虚脱感を克服していくため、赤十字思想の普及の必要

性を痛感し、赤十字奉仕団の設立に尽力され、昭和34年秋田市赤十字奉仕団委員長に

就任、更に昭和36年赤十字奉士団秋田県支部委員会委員長に就任されて以来今日まで

奉仕団活動の基盤づくりと充実強化に努力されている。

また、秋田県更生保護婦人連盟会長、結核予防会秋田県支部結核予防婦人会秋田連

合会長等多くの要職に就かれ、本県の社会福祉の向上に大きく貢献している。



## 檜岡焼の振興

小 松 幸一郎

(73歳)

住所

仙北郡南外村

文久三年、小松角右衛門氏によって創業された檜岡焼を父親から伝授され、青年時代から陶芸一筋に修業、研究を重ね素朴な味わいある檜岡焼の継承に努めるとともに、これまでの陶芸技法を発展させ、県の内外から好評を博し、本県美術工芸品の名声を高めるなど、陶芸界の振興に大きく貢献している。



## 産業経済の発展

まつ 松 本 修 一

(71歳)

住所

秋田市

昭和23年以来、秋田商工会議所の常議員、副会頭、会頭として、秋田市卸団地や中

央卸売市場の建設、秋田駅前再開発の推進等地域経済の振興、発展に寄与するととも

に昭和46年から秋田県商工会議所連合会長、東北六県商工会議所連合会の副会長とし

て、業界の指導育成に尽力するなど、本県の経済、商工業の発展に大きく貢献している。

また、秋田県機械金属工業会、秋田市金属工業会の創設に尽力するとともに会長と

して、業界の基盤づくりと充実強化に寄与するほか、「秋田貿易振興会」、「秋田・カナ

ダ交友協会」の会長として経済、文化の国際交流の促進に努めている。



## 埋蔵文化財の発掘調査

奈 良 修 介

(69歳)

住所

秋田市

長年にわたり県立高等学校の教師として子弟の教育に努めるかたわら、昭和26年以来秋田県文化財専門委員、また多年にわたり秋田市文化財保護審議委員として先史時代、古代における秋田県考古学の学問的体系づけに尽力し、特に、秋田城跡（国指定文化財）をはじめ、上新城上代窯跡（県指定文化財）や四ツ小屋小阿地下堤遺跡など埋蔵文化財発掘調査に多くの功績を残し、本県文化の発展に大きく貢献している。



## 地域医療の向上と アイバンクの設立

ひじ  
土 方 文 生

(58歳)

住所

秋田市

昭和47年から、秋田県眼科医会長、東北六県眼科医会連合会長等多くの要職に就か

れ、長年にわたり本県の医療及び保健衛生の向上に大きく貢献している。

特に、この間、角膜移植に関する法律の施行に伴い、「盲人にひかりを」の精神から

本県アイバンクの設立に尽力され、関係団体の協力を得るため東奔西走するとともに

技術の導入を図るなど、献身的な活動により昭和44年、秋田県アイバンクを開設し、

当初から理事、理事長としてアイバンクの医療体制の基盤づくりと、充実強化に尽く

されている。